

ラズベリーの多収で収穫能率が高い整枝方法

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

ラズベリーの夏果の収穫期間は約1ヵ月で、果実は日持ち性が悪く、週に2～3回手摘みする必要がある。また、新梢の生長も旺盛で繁茂しやすく、収穫には多大な労力を要する。そこで、多収で収穫能率が高い整枝方法を開発したので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 夏果の結果母枝を列正面から見たときにI字に配置(以下「I字整枝」)すると、慣行のV字に配置(以下V字整枝)するのに比べて、「サマーフェスティバル」及び「サウスランド」の両品種とも収穫作業の能率が上がり、1果当たりの収穫時間が約1秒短く、a当たりの収穫時間は59～83%に短縮される(図1、表1)。
- 2) I字整枝では、V字整枝と比べて、「サマーフェスティバル」及び「サウスランド」の両品種とも樹幅(列間方向)を狭く維持できる(表1)。
- 3) 両整枝方法とも、植栽列1m当たりの結果母枝数を10本配置することで「サマーフェスティバル」では約6kg、「サウスランド」では約3kg収穫でき、植栽列1m当たりの結果母枝数を5本配置するのに比べて収量が増加する(表2)。
- 4) 「サマーフェスティバル」及び「サウスランド」の両品種とも1果重と商品果率は結果母枝の配置や数で、大きな差はみられない(表2)。
- 5) I字整枝は樹体の中心に、地上部10cm、70cm、120cm及び170cmに番線を設置し、また、V字整枝は樹体両側に植栽列と平行に地上部70cm、120cm及び170cmに番線を設置し、番線を設置する支柱の長さは、下から40cm、60cm、80cmとする。また、地面にさす支柱の間隔は両整枝方法ともに5mとする(図1)。

3 利活用の留意点

- 1) I字整枝においては地面から伸びるシュートが通路側にせり出すので、図1のように夏果収穫前にシュートを高さ10cmに設置した番線に対し水平となるように結束し、夏果収穫終了後、矢印のように番線に誘引する。
- 2) 両整枝方法ともに、作業性の低下や、通気性の悪化により灰色カビ病などの病害が発生するおそれがあるので、結果母枝は植栽列1m当たり10本より多く配置しない。
- 3) 結果母枝を10本配置するとV字整枝はI字整枝より収穫量は多いが、収穫にかかる作業時間が長くなるので、整枝方法の選定に当たっては留意する。
- 4) 植栽時の株間は1m、列間は1.6mで、あぜシートを用いて畝幅約30cmの根域制限を行う。施肥量は植栽列1m当たり窒素成分で元肥9g、追肥6gとし、雨よけ被覆を行う。なお、樹齢は平成19年度で6年生である。

(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所 電話 022-383-8132)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

経営の幅を広げる水田転換畑用新規品目の検索と栽培流通方法の確立（平成 16 年～ 20 年度）

2) 参考データ

表1 ラズベリーの整枝方法の違いが収穫時間及び樹幅に及ぼす影響(H19)

品種名	処理区		収穫時間			樹幅 (cm)
	整枝方法	結果母枝数 (本/列m)	(秒/果)	(時間/a)	I字/V字 (%)	
サマーフェスティバル	I字	5	2.9	77	83	95
		10	3.4	170	74	93
	V字	5	3.8	93	-	128
		10	4.6	231	-	135
サウスランド	I字	5	3.9	40	67	78
		10	3.3	48	59	83
	V字	5	5.5	60	-	114
		10	5.0	82	-	133

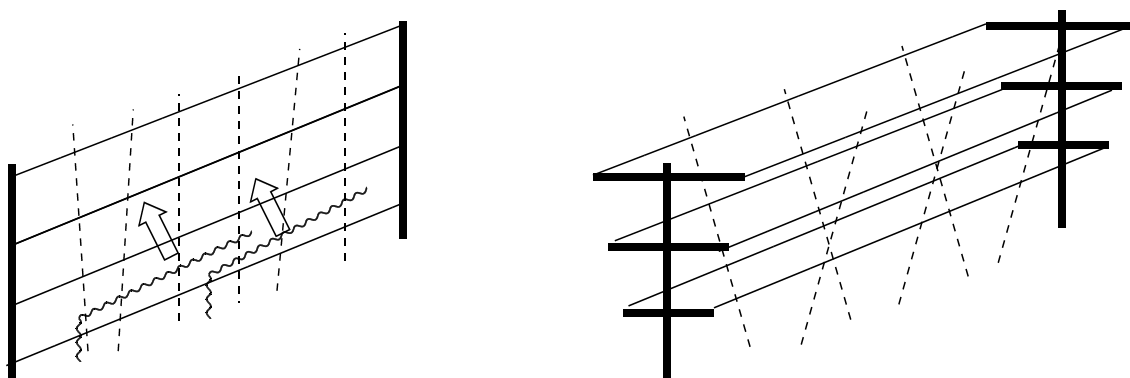
注1) 樹幅は列間方向の樹幅

2) 収穫時間(時間/a)は収穫果数(果/a)に1果当たりの収穫時間をかけて算出した

表2 ラズベリーの整枝方法の違いが夏果の収量、果実重および商品果率に及ぼす影響(H19)

品種名	処理区		収量			1果重 (g)	商品果率 (%)
	整枝方法	結果母枝数 (本/列m)	(kg/列1m)	(kg/a)	I字/V字 (%)		
サマーフェスティバル	I字	5	3.7	232	128	2.4	95
		10	6.0	373	96	2.1	90
	V字	5	2.9	181	-	2.1	92
		10	6.2	390	-	2.1	93
サウスランド	I字	5	2.0	125	111	3.4	98
		10	2.6	160	86	3.0	99
	V字	5	1.8	113	-	2.9	98
		10	3.0	187	-	3.1	98

注1) 収量(kg/a)は植栽列の間隔を1.6mとして算出した



太線：支柱 細線：番線 点線：夏果の結果母枝 波線：シュート

図1 各整枝方法のイメージ(左：I字整枝, 右：慣行/V字整枝)

3) 発表論文等

a その他

a)平成 19 年度東北農業研究成果情報「ラズベリーの多収で収穫能率が高い整枝方法」

